

第 95 回大腸癌研究会 プロジェクト研究「虫垂癌の臨床病理学研究」ミーティング議事録

日時：2021（令和 3）年 7 月 1 日（木）12:00～12:30

会場：web 会議

（敬称略）

出席者：村田幸平（関西労災病院）、新井まゆ子（西神戸医療センター）、井田在香（神奈川県がんセンター）、井出義人（JCHO 大阪病院）、伊藤 雅昭（国立がん研究センター東病院）、太田 博文（市立池田病院）、沖 英二（九州大学病院）、岡村 修（市立吹田市民病院）
荻野崇之（大阪大学）、小澤平太（栃木県立がんセンター）、小野智之（がん感染症センター都立駒込病院）、賀川義規（大阪府急性期医療センター）、加藤健志（大阪医療センター）、岸本光夫（京都市立病院）、木村 慶（兵庫医科大学）、河野真吾（順天堂大学）、小森孝通（県立西宮）、坂本一博（順天堂大学部附属順天堂医院）、鈴木陽三（大阪警察病院）、真貝竜史（大阪府済生会千里病院）、須藤 剛（山形県立中央病院）、武田 和（箕面市立）、竹政伊知朗（札幌医科大学医学部）、竹山廣志（市立豊中病院）、谷 公孝（東京女子医科大学）、中西正芳（松下記念病院）、西村正成（聖マリアンナ医科大学東横病院）、能浦真吾（市立豊中病院）、番場嘉子（東京女子医科大学）、福永 睦（兵庫県立西宮病院）、福長洋介（がん研有明病院）、船橋公彦（東邦大学医療センター大森病院）、松原裕樹（愛知県がんセンター）、水島 恒和（大阪警察病院）、森田俊治（市立伊丹病院）、八尾隆史（順天堂大学）、安井昌義（大阪国際がんセンター）、山岡雄祐（静岡がんセンター）、山崎健太郎（静岡県立静岡がんセンター）、横溝 肇（東京女子医科大学東医療センター）、吉松和彦（川崎医科大学）

1. 進捗状況と今後の予定（委員長 関西労災病院 村田幸平）

・論文の進捗状況

- ① がん研有明病院 松井信平 Analysis of Clinicopathological Characteristics of Appendiceal Tumors in Japan: A Multicenter Collaborative Retrospective Clinical Study- A Japanese Nationwide Survey. Shimpei Matsui, et al. Diseases of the Colon & Rectum vol 63:10 (2020). 本研究会 2021 年優秀論文賞受賞
- ② 都立駒込病院 山口達郎 Clinicopathological Characteristics of Low-Grade Appendiceal Mucinous Neoplasm. Tatsuro Yamaguchi, et al. Digestive Surgery (epub 38 (3) 2021 Mar 10).
- ③ 大阪急性期・総合医療センター 井上彬 Open versus Laparoscopic Surgery for Primary Appendiceal Tumors: A Large Multicenter Retrospective Propensity Score - Matched Cohort Study in Japan. Akira Inoue et al. Surgical Endoscopy (published on line 2020 Sep 29).
- ④ 箕面市立病院(市立豊中病院) 竹山廣志 Clinical Significance of Lymph Node Dissection and Lymph Node Metastasis in Primary Appendiceal Tumor Patients after

Curative Resection: A Retrospective Multicenter Cohort Study. Hiroshi Takeyama et al. Journal of Gastrointestinal Surgery (accept).

⑤ 西神戸医療センター 塩田哲也 「虫垂杯細胞腺癌」投稿中

・今後の予定

今回で本プロジェクトは終了。今後は、規約改訂、ガイドライン改訂において、今回の結果が反映されるように働きかける。

2. 虫垂癌に対するリンパ節郭清の予後への影響 (市立豊中病院 竹山廣志)

・虫垂腺癌手術治療における、リンパ節転移の危険因子を検索し、郭清省略可能症例を模索することを目的とした。

・308例の解析では組織型が粘液腺癌 G1 (LAMN を含む) および深達度 Tis+T1 では、リンパ節転移を1例も認めず。

・結論；まず虫垂切除のみが行われた場合、組織型が粘液腺癌 G1 (LAMN を含む) または深達度が Tis or T1 ならば追加リンパ節郭清を省略することも許容される可能性あり。

3. 虫垂 Goblet Cell Adenocarcinoma (西神戸医療センター 塩田哲也)

・最終的に20例での解析となったが、全虫垂腫瘍における頻度は欧米で15%前後、今回の検討では3.5%程度。

・遠隔転移部位は、腹膜播種 (100%)、胸膜播種 (12.5%)、卵巣 (12.5%)。遺残リンパ節への再発は認めず。

・腹膜播種の危険因子は、領域リンパ節転移陽性 ($p=0.04$) および組織型 Grade 3 ($p=0.07$)。

・領域リンパ節転移の予測因子は、Lymphovascular invasion の可能性 ($p=0.15$)あり。追加切除を省略する根拠となる data は認めず。現時点では、全例追加切除が望ましい。